

令和4年度

グループホーム長寿の家 事業報告

【令和4年度重点目標】

1. 多様化するニーズへ対応できる職員のスキルアップ
2. 業務改善と情報収集及び発信
3. 開かれた施設を目指した地域参画

【運営実績】

1. 多様化するニーズへ対応できる職員のスキルアップ

- ①利用者・家族からのニーズを把握し、それらを実現するための検討を重ね、評価を繰り返すことで、より質の高いケアを提供できるように努めます
→ コロナ禍で外部研修への参加は減少したが、認知症実践者研修やオンラインによる参加を積極的に行うと共に、職員間でも研修を行い知識や技術の習得が出来た。
- ②地域や社会から期待されている役割を理解し、多面的に対応できる職員を育成するため、情報収集・知識の習得や施設からの発信を積極的に行うことで活躍できる場を広げます
→コロナ禍においてもルールを決めての面会を続けたことで、家族の思いなどコロナ禍だからこそ、いつも以上に心配や不安などを感じる事が出来た。その家族の思いを職員が共有することでケアの統一や個別の対応に繋げることが出来た。
- ③ご家族や入居者への接遇の向上及び職場におけるビジネスマナーの向上を意識することで、職員個々のスキルアップに努めます
→ご家族に対する接遇に関しては問題なく対応できている。入居者の方に関しては時折指示命令系の声かけがあり、認知症を理解しての声かけや個別の性格や状況に応じた声かけや接遇が出来るよう今後の目標とする。

2. 業務改善と情報収集及び発信

- ①利用者のADL維持・向上や、認知症における行動と心理症状の特性を理解することで、心のこもった支援を行います
→認知症の行動・心理症状や疾病を正しく理解し、予兆を早期に察知することで予防に努めることができた。
- ②目的意識を持ち、根拠に基づいたケアを提供します
→日々行っているケアについて、利用者の負担軽減、コスト削減の面から検討し、確かな根拠に基づいた改善を身に付けることができた。
- ③業務の効率化(事務作業)を常に考えると共に、より専門性のある技術と情報発信をすることでご家族および地域の方から信頼される施設づくりを行う
→事務作業の効率化は常に意識し改善することが出来た。グループホームの特徴や取り組みなどコロナ過で規制される場面はあったものの、広報紙・毎月のご家族への手紙・運営推進会議資料の「おたっしゃ通信」などの媒体を通じて発信することが出来、ご家族との信頼関係を深めることが出来た。

3. 開かれた施設を目指した地域参画

- ①感染症に最大限の対策をしながらも、地域の人々と共有し、誰もが専門性の高い知識を持った職員と相談ができる場として、施設の役割を果たします
→感染対策の一環として面会が出来ない期間があり、以前に比べると地域やご家族の関わる機会が減少したが、毎月の家族への手紙など積極的な取り組みを行うことができた。
運営推進委員会(2カ月に1回)は一度も開催することができなかったが、書面開催にて発信することは出来た。
- ②感染対策禍においても積極的に情報を発信することで、認知症への理解を深め、利用者が社会との繋がりを感じ続けることができる関係の維持に努めます
→広報紙・毎月のご家族への手紙・運営推進会議資料の「おたっしゃ通信」などの媒体を通じて発信することが出来た。11月には地域主催の作品展示に参加した。

③施設の特徴を明確化し、社会情勢を考慮した効果的な情報発信に努めます
→事業所の理念「家族のようなあたたかい家」を意識し、認知症があっても住み慣れた地域で過ごすことが出来る環境づくりと、可能なかぎり残存能力を維持し役割をもって生活を楽しむことができた。散歩など地域の方との交流を持つことでグループホームの役割や地域に対しての安心を感じていただけることが出来た。